

牧草・飼料作物栽培における放射能対策研究

- ・除染のための草地更新では、**深く細かく土を耕うん**することが重要です。
- ・**堆肥の施用**は土壌中の交換性カリを高め、牧草・飼料作物の**放射性セシウム吸収抑制**に有効です。

永年草地

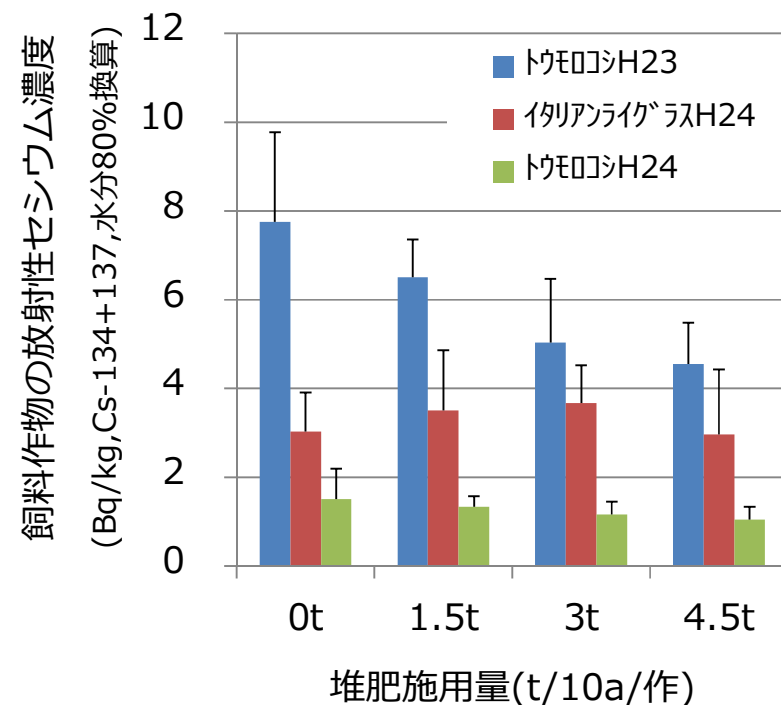


除染後でも牧草の濃度が暫定許容値を超える草地では、浅いところに放射性セシウム濃度の高いリター・ルートマットが塊で存在することが多い。

牧草の放射性セシウム濃度は耕起深と碎土率と負の相関を圃場試験で確認

汚染表土を深く、細かく耕すことが重要！

飼料用トウモロコシーイタリアンライグラス2毛作



堆肥の継続的施用は、放射性セシウム低減に有効！
堆肥一作当たり3t/10aの継続的施用で、作付け後の交換性カリ含量が飼料畑土壌診断基準の上限値程度に維持。

☎ 詳しい情報を知りたい、という方はお気軽にご連絡ください。

(国研)農研機構 畜産研究部門 企画管理部 企画連携室広報プランナー

TEL:029-838-8292(直) FAX:029-838-8606(代表) URL: <https://www.naro.affrc.go.jp/inquiry/tech.html>